

事業報告

「やさしい日本語」学習会

日時：令和2年10月26日（月） 18：20～20：50（別府市）

令和2年11月 9日（月） 18：20～20：50（中津市）

会場：別府市：別府市中央公民館 講座室

中津市：中津市今津コミュニティセンター 集会室

参加者：別府市：23名

中津市：21名

<研修趣旨>

県内在住外国人と地域住民とのコミュニケーションの拡大を図るため、社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や交流活動の取組を推進する。

「やさしい日本語」に関心をもつ地域住民を対象に、「やさしい日本語」の基礎や話し方、書き方について学習する機会を提供し、相手に応じた言葉の選び方や伝え方を工夫する人材を育成する。

<研修内容>

【演習】 「『やさしい日本語』への書き換え」「『やさしい日本語』で話してみよう」

講師：立命館アジア太平洋大学言語教育センター長／教授 本田 明子 氏

日頃当たり前に使っている日本語を、「やさしい日本語」として「日本語話者」でない外国人に伝えることの難しさを実感することができました。「やさしい日本語」には答えがあるわけではなく、「易しく」伝えるためのルールを守り、「優しく」伝えるために相手を思いやりながらわかりやすく書いたり話したりすることが大切だということを実感し、コミュニケーションの手段として「やさしい日本語」を普及していくことの重要性をより一層確認することができました。

<当日の様子（写真）>

【別府市会場 10月26日（月）別府市中央公民館 講座室】

講師

立命館アジア太平洋大学 本田 明子 教授

「書く」

「話す」



【中津市会場 11月9日（月）中津市今津コミュニティセンター 集会室

講師

本田教授

「書く」

「話す」



＜参加者感想＞

- ◇最後に留学生の食事時の手の話があったが、多様性を受け入れていくには、まず外国の文化を知るところから始まるのでは、と思った。日頃からの外国人との交流の機会をもつことが大切だと感じた。
- ◇主語・述語、「です」「ます」で話すことの難しさがよくわかった。
- ◇自分なりに考えていた「やさしい日本語」が、経験値の高い識者である先生の教え、会場の皆さんのお話により、改善され、役立つものに近づいたと感じた。ぜひこのような機会をたくさん設けていただきたい。
- ◇自分が思っているよりも「やさしい日本語」は難しかった。今日はこの学習会に参加できてよかった。
- ◇自分の使っている日本語を見つめ直す良い機会になった。これからもわかりやすい日本語を使いたい。
- ◇今回は実践編だったので、楽しく学べてすぐに活かせそうだった。最後に参加者の方がおっしゃっていた「多文化共生」そのものについて討議する会をぜひやってほしいと思った。言葉のノウハウも大切だがその前の「市民意識の向上講座」みたいなものを企画してほしい。
- ◇相手の立場に立って日本語を書いたり話したりすることを実際やってみてよかった。外国の方と話をするとき、ときどきするが、機会があれば進んで「やさしい日本語」でお話したい。今日は、「やさしい日本語」で教えていただきとても分かりやすかった。
- ◇初めてだったが「やさしい日本語」での話し方が大切と少し理解できた。両方（日本人と外国人）が近くならなければと思った。
- ◇「やさしい日本語」の書き方、話し方の基本的な考え方が学べた。同時に外国人に理解してもらうための工夫（図や絵、スマホなどの利用）、日頃からのコミュニケーション、親切や思いやりのある付き合い方等のことも大事であることもわかったことが大きな収穫。「やさしい日本人」であること。